

「ただ神のあわれみによって」

～あなたは神さまの栄光をあらわす存在です！～

「以上述べてきたことは、真実だから、私は、あなたがこれらのことを確信をもって語るように願っている。それは、神を信じている人々が、神の御心になつた善い働きに励むことを心掛けるようになるためである。これらのことは良いことであつて、人々に有益なことである。」

テトス3:8 [現代訳]

この手紙の全体を通して、使徒パウロは、「良いわざ」を強調している。「良い」ということばは「美しい」とも訳すことができる。私たちは救われるために働くべきではない。そうではなく、救われたゆえに、すべてのよいわざをする用意があり、よいわざに励むことを心がけなければならない。…。議論や論争を避けるようにとは、賢明な忠告である。議論とか論争のような方法で真理を推し進めようとしても、ほとんど益はない。結局、「その結ぶ実は何か」という主イエスのテストが、問題となっているすべての教えに対するほんとうのテストである。…。それゆえ私たちは、きよい生活を送ることによって、親切、美しさ、義、純潔という実を育て上げるべきである。自分自身をイエスにささげて、全くイエスのものとしていただき、用いていただく。そして、イエスの栄光が現わされ、その御国が栄えることを、私たちの目標としようではないか。そうすれば、真理に対する私たちの見方ははっきりしてくるし、健全なものとなってくる。私たちの生活の美しさは、反ばくする者を納得させるに効果的である。雄弁な論争家であるよりも、きよい生活を送ることのほうがずっとよい。正統的な信仰の一番よい証明は、キリストのような生活を送ることである。〔F・B・マイヤー『日々のみことば』から〕

「良いわざ」を行うことができる人とは、「ただ神のあわれみによって」自分自身が救われ、生かされていることを理解し、体験している者が初めてあらわすことができる。そして、「だれをもそしらず、争わず、寛容であつてすべての人に対してどこまでも柔和な態度を示す(2節)」ことです。この後半のことばは、ある英語の聖書では「無制限にすべての人に対して謙遜に仕える心を持って接する」というような表現をしていました。しかし、それは私たちの生れながらの感情、好みがある心では到底できることではありません。だからこそ、私たちには聖霊様のお働きなしに神さまの栄光をあらわすことなど決してできないのですが、主イエス様によって救われた私たちにとって、聖霊様によって生れ変らされている私たちですから、当然、その「良いわざ」をすることができ、豊かに素晴らしい「実」を实らせる存在とさせていただいていることを自覚する必要があるのです。あなたは神さまの栄光をあらわせる存在ですか？ 答えは”Big Yes!”です。あなたはすでに神さまの栄光をあらわしています！！ハレルヤ！